

# あの夏、国立競技場へ

～金井高校チーム・高校生クイズ全国大会の思い出～

1983年に放送が始まり現在も続くクイズの甲子園、日本テレビ『全国高等学校クイズ選手権』第6回大会(1986年8月27日放送)に、金井高校の2年生チームが神奈川県代表として出場しました。



小垣原(本柳)さん、大野(吉川)さん、清水(西尾)さん  
【左から・2025年12月5日撮影】

チームメンバーは11期生、リーダーの大野(旧姓・吉川)美千代さん、清水(旧姓・西尾)美花さん、小垣原(旧姓・本柳)恵さんの3人です。2025年末、3人で集まって当時の思い出を振り返り、小垣原さんにまとめていただきました。金井高校の創立50周年記念誌では簡単なレポートでしたが、このWEB版同窓会報では、記念誌で紹介しきれなかった、出場時のエピソードを語っていただきました。

## 直感を信じて勝ち抜いた関東ブロック予選

1986年7月25日。

私たち金井高校・吉川チームは、早朝に横浜を出発し、関東ブロックの予選会場である埼玉県所沢市の西武球場に向かいました。10時頃に到着すると球場の前では既にクイズの1問目と2問目が出題されていました(現在ではスマホ統一テストでの予選ですね)。

1問目はニューヨークの自由の女神の影の長さ、2問目は関東大会参加チームのリーダーの血液型に関する「YES・NO問題」です。この2問の「YES」「NO」の組み合わせによって入場口が分かれています、選択したスタンドに着席、2問とも正解するとグラウンドに降りて3問目以降のクイズに挑戦でき、不正解の場合は敗退、そのままスタンドで観戦するというルールでした。

私たち金井高校チームは、1問目「NO」、2問目「YES」のスタンドに着席しました。

13時半からの正解発表を待つ間、当時のアイドル芳本美代子、山本理沙、志賀真理子の歌や、コント赤信号のトークショーで、会場は大いに盛り上がりました。これだけ観たら帰ってもいいと思えるほど、楽しいひとときでした。

ショーの後、リリーフカーに乗って「トメさん」こと福留功男アナウンサーが登場、

「青春まっただなか、みんな燃えているか！」

その掛け声に応え、約5万人の高校生が全力で声を上げ、拳を突き上げました。

そして、ついに運命の正解発表の時。電光掲示板に表示されたのは、1問目「NO」、2問目「YES」、私たちは2問とも正解し、スタンドで飛び跳ねながら喜びました。

3問目からは、グラウンド内の「YES」のエリアと「NO」のエリアを行ったり来たりしながら正解を目指します。しばらくは近くにいた他県の名門校チームについていく作戦(?)をとっていましたが、いつの間にか彼らとはぐれてしまいました。しかし、金井高校チームは自分たちの直感を信じて正解を重ねていきます。各県5チームに絞られたところで行われた決戦の早押しクイズにも勝ち抜けて、神奈川県代表に決定しました。



関東ブロック予選、県代表に決定の瞬間

高校生クイズの開催は、この第6回以降は毎夏の年1回になりましたが、それ以前は夏と冬の年2回開催されていました。私たちは1年生のときに夏・冬とも参加していたため、3度目の挑戦で代表になったわけです。当時の関東ブロック参加チームは16,364組でしたから、もしかしたら、金井高校のチームが他にも参加していたかもしれませんね。

## 国立競技場で迎えた全国大会

8月14日。全国大会の会場は、オリンピックの舞台として知られる国立競技場でした。各都道府県代表49チームの校名が記された大幕がスタンドに掲げられ、参加チ

ームは高校野球の甲子園大会さながらの行進で入場しました。さらに、徳光和夫アナウンサーによる聖火の点火も行われ、全国大会にふさわしい華やかな演出が印象的でした。

クイズの形式は「究極のジャンル早押し通過クイズ」です。ジャンル別問題に正解したチームは、通過問題に挑戦することができ、これに正解すれば準々決勝へ進出できます。準々決勝に進めるのは、8チームです。ただし、通過問題には「通過阻止」の仕組みがあり、他のチームがその問題に正解すると、挑戦中のチームの進出を妨げることができます。金井高校チームはここで多くの問題に正解して他チームの進出を阻止しました。しかし、肝心の通過問題に正解することができず、最終的に準々決勝進出は叶いませんでした。

それでも最後に、司会の福留アナウンサーから「一番正解したのは金井高校だったよ」と声をかけていただいたことは、今でも忘れられない思い出です。

## 涙、涙のリクエスト～敗者復活戦～

国立競技場を後にして日本テレビに戻ると、「カラオケのど自慢大会」が、私たちを待っていました。復活できる2チームの座をめぐって、41チームが歌声で競う敗者復活戦です。最初は、当時の大ヒット曲、チェッカーズの『涙のリクエスト』を「東軍」と「西軍」に分かれて歌う団体戦で、金井高校は東軍チームで熱唱しましたが、審査委員長の「カラオケ採点機」が軍配をあげたのは西軍。再び見えた準々決勝への道は閉ざされ、金井高校の挑戦はここで幕を下ろしました。

参加賞として、当時の番組スポンサーから、番組特製のリュックに入った製品の詰め合わせをいただきました。そこには、シャンプーや家庭用洗剤などが入っており、家族がとても喜んでくれました。

ちなみに、その後、大会は富士山に会場を移して行われ、奈良県代表の「東大寺学園」が優勝を飾りました。

8月27日の放送では私たちが解答しているシーンはカットされ、顔が少し映る程度の出演となりました。当時は家庭用ビデオデッキが普及しはじめた頃で、放送を録画するために親に頼んで買ってもらったことも、懐かしい記憶として残っています。ちなみに、当時のビデオテープは今も実家に保管されていたので、今回、再生して観ることができました。

## 大会後も高校生クイズでの青春が続く

全国大会で敗退した帰り道、東京近郊の国立高校・富士高校・川越高校の皆さんと一緒に、打ち上げの食事会をしました。大会中には緊張していたこともあり、他校のチームとは話せませんでした



日本テレビにて(後列の3人)

が、すべてが終わるとすぐに打ち解けることができました。

大会後も交流は続き、富士高校や川越高校の文化祭に遊びに行ったり、逆に横浜に来てもらったりしました。横浜では、キョンシーの出てくる映画を観てみんなで大笑いしました。また、なぜか川越高校チームメンバーのお父様の職場を案内していただいたこともあり、今思い返すと不思議で楽しい思い出です。



あくまで個人的な感想ですが、他県に友人ができたことで視野が広がり、新しい居場所ができたと感じました。

ところで、後日発売されたクイズの問題集『高校生クイズ6』には、全国大会に出場した代表校の紹介記事が掲載されていました。金井高校チームの紹介文のキャッチコピーが「全国レース大穴狙いの大胆ギャル」となっており、読んだ途端に思わず笑ってしまいました。

今回、3人で問題集を読み返してみたところ、当時自分たちが解答した早押しクイズの問題をちゃんと覚えていました。しかし、改めて挑戦してみても、今では正解することができませんでした。あの夏のヒラメキはどこにいったのでしょうか…。

## 創立50周年の節目に寄せて

金井高校が創立50周年を迎え、あわせて5年後の「完校」が決まった節目で、高校生クイズ全国大会に出場した経験を記事にするご縁をいただき、嬉しさを感じております。当時の金井高校で学び、仲間とともにひとつの

目標に挑戦したことは、今でも確かな思い出として、私の心を支えてくれています。この記事が、在校生や卒業生の皆さんにとって「こんな卒業生もいたのだ」と知っていただく機会になっていたら幸いです。